

# 【令和2年度 徳島市立高等学校 学力向上実行プラン】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
学習指導の 充実	①授業日数・授業時数の確保に努める。  ②わかりやすく、魅力ある授業に努める。  ③学習習慣の定着を図る。  ④思考力、判断力、表現力を育成する。  ⑤英語4技能を育成する。  ⑥多面的評価を図る。  ⑦学校図書館の「学習センター」機能の充実を図る。  ⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	
		①授業時数を800時間以上確保する。		(評定)	
		②(1年)「学習のかたち週間」を1学期と2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期に実施する。  ②授業満足度80%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。		(所見)	
		③定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、60%以上を目標とする。 ③定期考査後に「振り返りの時間(リフレクションタイム)」を設定し、取り組みにたいする成果と課題について自己評価させる。 ③学年団を中心とする学力向上研究会を各学期に1回以上開催し、学力や学習状況についての分析、共有、協議を行う。			
		④補習授業での演習や実力テストでは、全教科において論述問題を出題する。 ④教科会を開き、論述問題についての出題や正答率について分析・検証を行う。			
		⑤すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる機会をもつ。 ⑤英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。			
		⑥すべての学年において、ポートフォリオを作成させる。 ⑥記録用のワークシートを配布、配信し、HR活動やIRPの時間などを利用して、活動や実績を記録させ、成果や課題についての振り返りをさせる。			
		⑦12月末までの生徒入館者数について、前年度並の6,200人以上にする。  ⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の割合40%以下を目指す。 ⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。			
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。			

		<p>②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとおり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。</p> <p>②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。</p> <p>②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。</p>				
		<p>③週間課題・日々の課題を活用し、学力の定着を図る。</p> <p>③学習時間調査の期間を利用して、生徒一人一人の学習状況を確認するとともに、学習習慣の定着を促進する。</p>				
		<p>④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。</p>				
		<p>⑤ICT環境の整備を計画的に進める。</p> <p>⑤英語外部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。</p>				
		<p>⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。</p> <p>⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。</p>				
		<p>⑦教科や学年との連携を強化し、授業内容に合った資料の収集に一層努める。</p>				
		<p>⑧夏季休業中の課題として、地歴・公民科でレポートを提出させることで表現する力を向上させる。</p> <p>⑧公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。</p> <p>⑧各学年において、公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>				

【令和2年度 徳島市立高等学校 学力向上推進員・学力向上検討委員】

学力向上推進員	村澤 宏樹	学力向上検討委員	豊田 聖司・宮本 千賀博・赤澤 昌宏・森河 丈志・平野 朋美・清崎 美和・樽見 拓・伊丹 久美子・小泉 賢仁・村山 佳史・ 梅本 敏行・渡部 佳代子・大久保 征・井口 智・有井 真由美・上村 愛・先田 知生
---------	-------	----------	--